

実習施設・事業等（Ⅱ）の実習が実習施設にもたらす影響と課題
—介護実習指導者のインタビュー調査の分析—

福祉心理学専攻 高橋 由紀

要 旨

超高齢社会の現在の日本にとって、介護を必要とする高齢者も増えているが、家族だけで介護を担うのではなく、専門職の介入が必要となっている。介護の専門職として国家資格である介護福祉士があり、その専門性として、自律的に介護過程の展開ができることがあげられている。しかしながら、介護老人福祉施設にて計画立案は、介護支援専門員が立てたケアプランでの介護提供が64.6%であり、ケアプランと連動した介護計画の立案は27.3%となっており、個別援助計画である介護過程がほとんど活用されていない。そのため、学生が実習で行う介護過程の展開が、実習施設はどのような影響を受けているのか、また、それにより見えてくる課題を明らかにすることを目的とした。研究対象者は2017年度以降介護施設・事業(Ⅱ)実習を引き受けていた介護老人福祉施設に勤務している介護実習指導者とし、10施設20名の半構造的インタビューにより逐語化したデータを、グランデット・セオリー・アプローチの分析過程の一部である、データの読み込みと切片化を行いその後KJ法を用いて11のカテゴリーと28のサブカテゴリーを抽出した。結果は、職員であると身体的な支援に向きやすいが、学生の介護過程は心理面や精神面への視点があるとされた。そのため、利用者の表情に笑顔が増えることや、利用者が自分自身に関心を持ってもらっていると感じられていること、実習終了後に体力が低下した利用者が学生に会いたいというような【介護過程を展開し変化した利用者の心情】がさまざま見られた。また、理論的に考えることができず、実習を負担に感じ【実習を担当しても成長のみられない職員】がいることがあげられた。しかし、介護職員の学びにも繋がり【人材確保に繋がる施設の質の向上】、そして実習指導者として【実習を通して見られた職員への喜びや指導の難しさ】や【最期まで利用者の幸せを考えられる介護福祉士の育成】など、介護職員や施設、実習指導者はさまざまな影響を受けていた。これらから、利用者への影響と課題としては、利用者は他者との信頼関係を高め、自尊心を回復すること、介護職員への影響と課題としては、介護職員への教育の重要性、実習施設への影響と課題としては、利用者へのより良い支援と人材確保するための施設の在り方が明らかとなった。その中でも、介護職員への職員教育の重要性が浮き彫りとなった。介護現場では、介護福祉士だけではなく、介護福祉士を筆頭に介護福祉士実務者研修、介護職員初任者研修、無資格者などがある。そのため学んでいる専門的な知識・経験の違いがみられる。また、介護過程をもとに、職員教育を行うことで、職員の定着、学生の就職にも繋がる可能性が高くなると考えられた。利用者へのより良い支援、より良い職員、より良い施設にするためにも、実習施設と養成校とが連携し、実習する学生や、現場での職員教育に対して協働でプログラムを作成するなど、学生だけでなく、介護職員に対しても段階的に学べるような環境を確立し、職場内の良好なチームワークを作っていくことが必要である。

キーワード：介護過程、利用者の心情変化、介護実習指導者、介護職員教育
介護職員人材確保